主要施策	健やかで安心な暮らしを支える保健・医療体制の充実
施策の柱	５　保健・医療と福祉の連携
施策の分類	保健・医療

■　現状と課題

〇地域包括支援センター

平成１８年４月に施行された改正介護保険法により、地域住民の保健医療の向上及び福祉の増進を包括的に支援することを目的とした、「地域包括支援センター」が各市区町村に設置されました。

鶴田町では鶴田町社会福祉協議会に実施を委託しています。

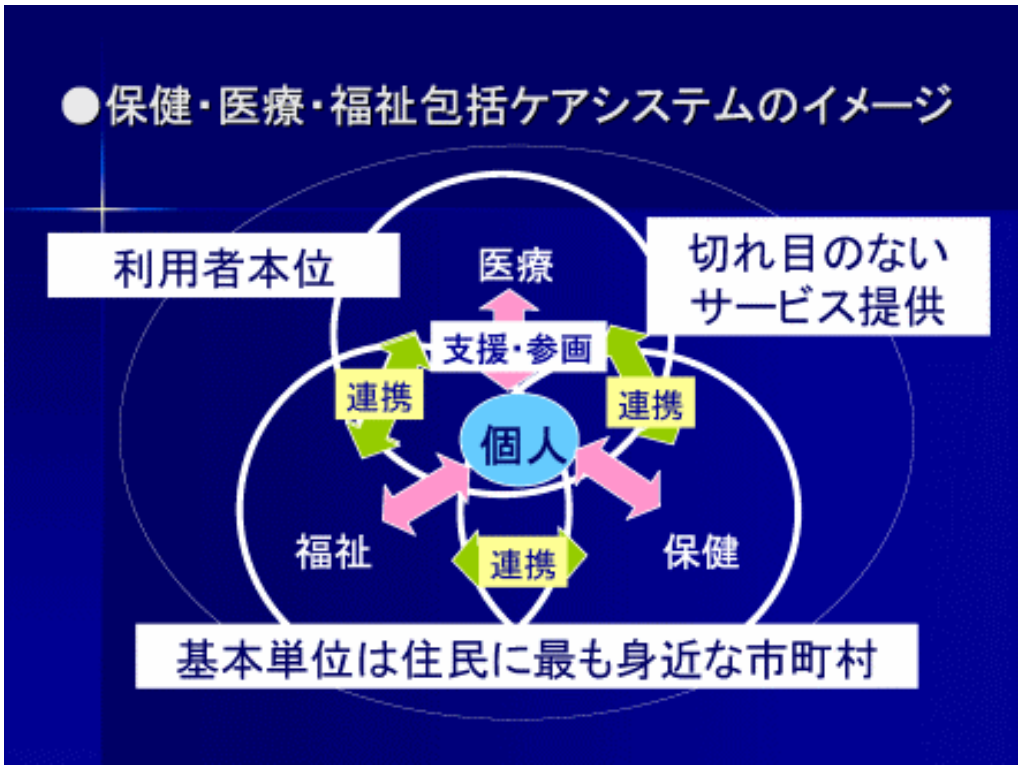
〇広域化する地域医療体制

西北五地域における医療体制が広域化する中で、「健康長寿の町」を実現するためには、医療と保健・福祉との連携を更に緊密にしなければなりません。

〇地域包括ケアシステム

現在、町が主体となった包括ケアシステムの計画は整備されておらず、保健・医療分野と福祉分野のサービスが、総合的・一体的に提供される「鶴田町地域包括ケアシステム」の整備が急がれています。

〇青森県健康福祉政策課　「包括ケア」ってなぁに？　から



◎地域包括支援センターの業務（厚生労働省ホームページから）

◇包括的支援事業

・介護予防ケアマネジメント

・総合相談・支援

・権利擁護 ― 自己の権利を表明することが困難な寝たきりの高齢者や、認知症の高齢者、障害者の代わりに代理人が権利を表明すること。

・包括的・継続的ケアマネジメント支援

◇介護予防支援業務

・指定介護予防支援事業所として、要支援者のケアマネジメントを実施。

■　目指す姿（基本方針）

○　保健・医療・福祉の各サービスが総合的・一体的に受けられ、生涯にわたり安心して生活できるまちを目指します。

○　地域全体で住民の健康に目を配り、住み慣れた地域で自立して暮らせるまちを目指します。

■　施策の内容

○　「鶴田町地域包括ケアシステム計画」（仮称）を策定します。

○　保健・医療・福祉に関して町民が気軽に相談できる総合窓口の充実に努めます。

○　鶴田町地域包括支援センターを核として、町内各地域や機関・団体等をネットワークで結び、切れ目のないサービス体制を整備します。

○　平成２５年度に開院予定である、つがる総合病院の「地域医療連携室」（仮称）や県、町内の医療機関などと連携し、医療の面での協力体制の確立に努めます。

担当：健康保険課・町民生活課・つがる西北五広域連合

◆リビング・ウィル（Living Will）　―生前の意思

現在の医療業界の一般的な行為として、植物状態の人の延命治療は止めることができません。

植物状態に近い状態になり自分の意思を表せなくなった時、「死に至るまでの医療の選択」という権利を守るためには、生前に遺言書などの書面で意思を表明しておくことが必要です。

医療に長期間生かされること、終末期の過剰治療を拒否することは、人間の尊厳に係る権利であり、当然に守られるべきものですが、十分に認識されてはいません。

患者側と医療側が、終末期の治療方針について対等に話し合う場を整備することが、必要とされています。